

年 組 名前:

健康科学大が来年度導入

リハビリ実技VRで

動き「体験」学び定着へ

健康科学大は2025年度から、VR（仮想現実）を活用した体験型の教育プログラムを健康科学部リハビリテーション学科に導入する。理学療法士や作業療法士を目指す学生が、特に実習を行うために必要な実技試験の準備に活用し、学びの定着を図る。将来的には看護学部に取り入れることも検討している。

〈小池直輝〉

大学によると、2年前から解剖学の授業でVRを活用。学生の反応も良く、立体的に図や動画を見ることができ、ため「学生の興味、関心を引くことに加え、授業の内容が理解しやすい」（高村浩司健康科学部長）として、来年度から本格導入し、活用の幅を広げることとした。

理学療法士や作業療法士を目指す学生が臨床実習を始める前には、それまでに学んだ知識や技術の習得を確認する客観的臨床能力試験（OSCC）

E）に合格する必要がある。これまでには学生同士で練習してから試験に臨んでいたが、VRを試験前の最終確認の場として活用することを想定している。

導入するのは民間企業が開発した「VR活用教育プログラム」で、大学によると、4年制大学での導入は全国初とみられる。VRゴーグルを着けると、リハビリなどの実際の動きを立体的に見ることができ、留意点なども表示される。実際に理学療法士や作

業療法士がどのようにリハビリに取り組んでいるか「体験」できるような仕組みになっている。

大学では来年度の導入に向け、企業と共同で、より学びに適したプログラムに改良する予定という。VRを使った学びは普段の授業でも取り入れる方向で検討している。

高村学部長は「知識、技術の定着を図り、学生の興味関心を引く学びを取り入れていきたい」と話している。

(2024年8月12日付 山梨日日新聞 16面)

問1

健康科学大・リハビリテーション学科に、2025年度から導入する教育プログラムを教えてください。

.....

問2

この教育プログラムは、なにを目指す学生向けですか。

.....

問3

この教育プログラムの良いところを教えてください。

.....

.....

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します

Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.